

ポテトデキストロース寒天培地 使用説明書

マイクロバイオ株式会社

1. 特徴

このポテトデキストロース寒天培地は、検体中の真菌(カビ・酵母)を迅速に分離検出できるようにしたもので、画線塗抹時の耐寒天損傷性や長期培養時の耐乾燥性に優れた培地です。

2. 概要

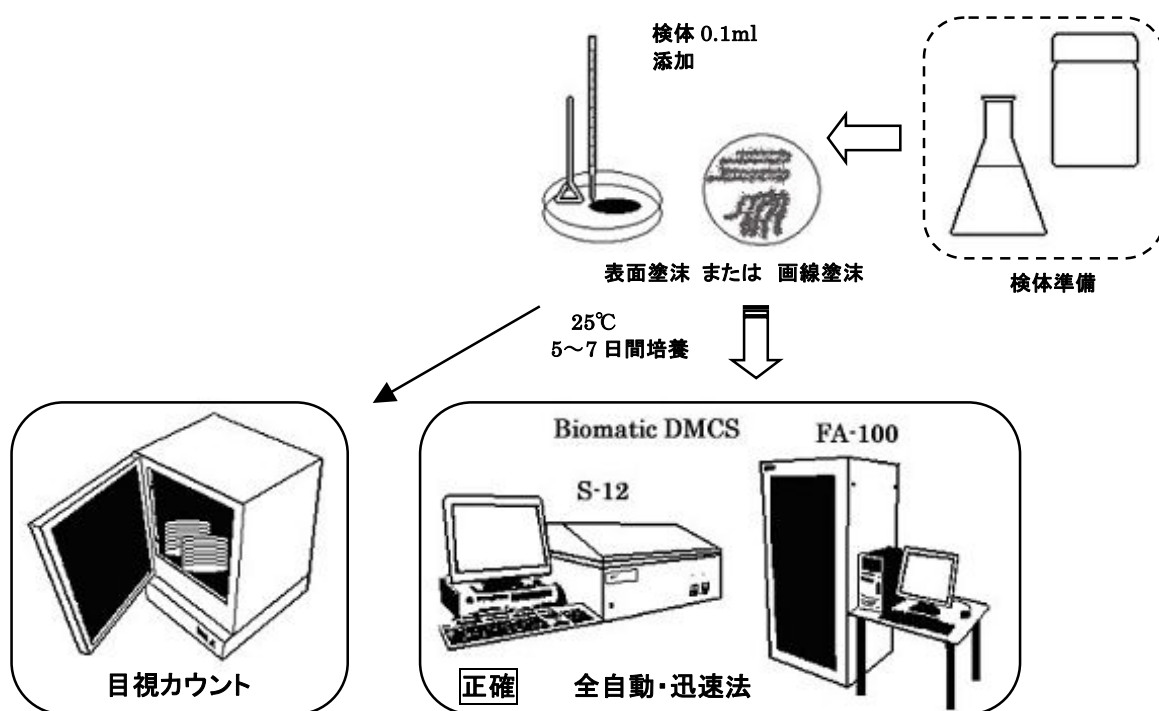
ポテトデキストロース寒天培地は、真菌(カビ・酵母)を把握するのに用いられます。真菌は、土壌・空気・水などに広く分布し、食品の変敗を引き起こしたりする菌種もありますが、カビ毒を産生する病原性の菌種も存在します。一方では、発酵食品や抗生物質などの有効物質の産生に欠かす事のできない菌種も存在します。

3. 検査の手順 (0.1ml 表面塗抹 または 画線塗抹)

* 20℃以上の環境で、クリーンベンチ等の無菌操作をお勧めします。

3-1 塗抹の場合は、検体を培地表面に 0.1ml を添加し、スプレッダー等で全面に広げ 15~20 分程度静置させます。画線塗抹の場合は、検体または菌床から白金耳でサンプルを取り出し、培地表面へ目的に合うような画線塗抹をします。

3-2 培地は蓋を下にし、20~25℃で 5~7 日間培養します。Biomatic DMCS(デジタル顕微鏡装置)を使用すれば、全自動で速く正確にコロニー数が計測できます。

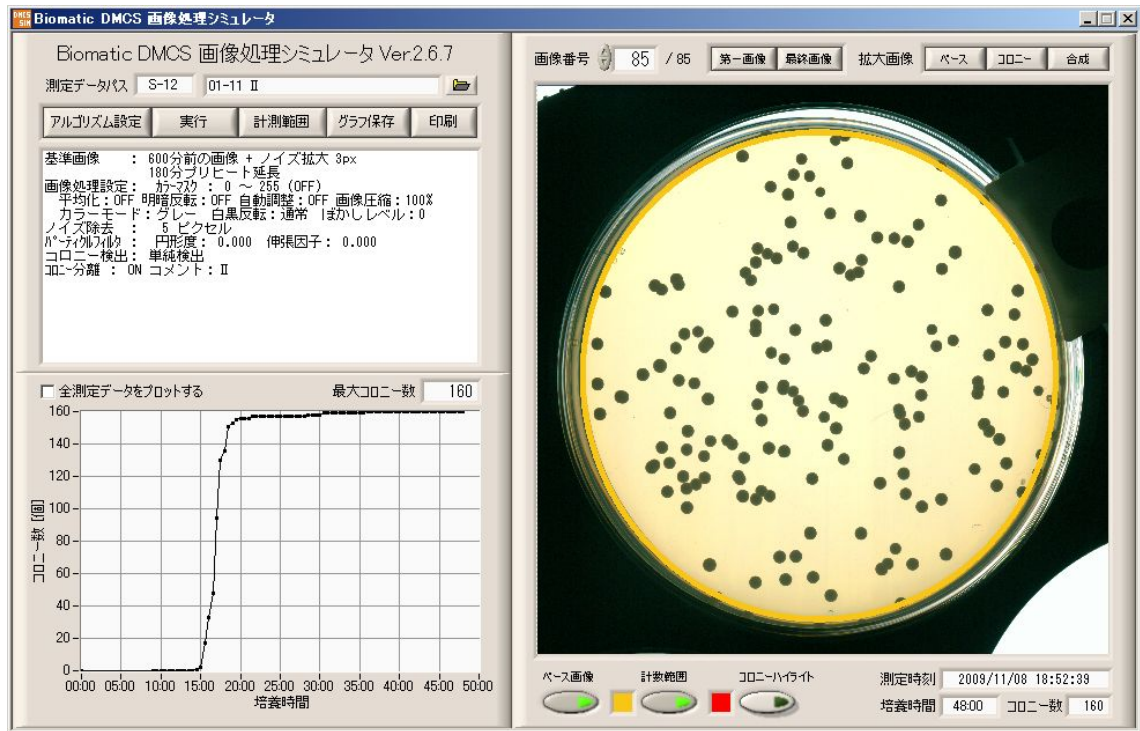


4. 培地の保管方法

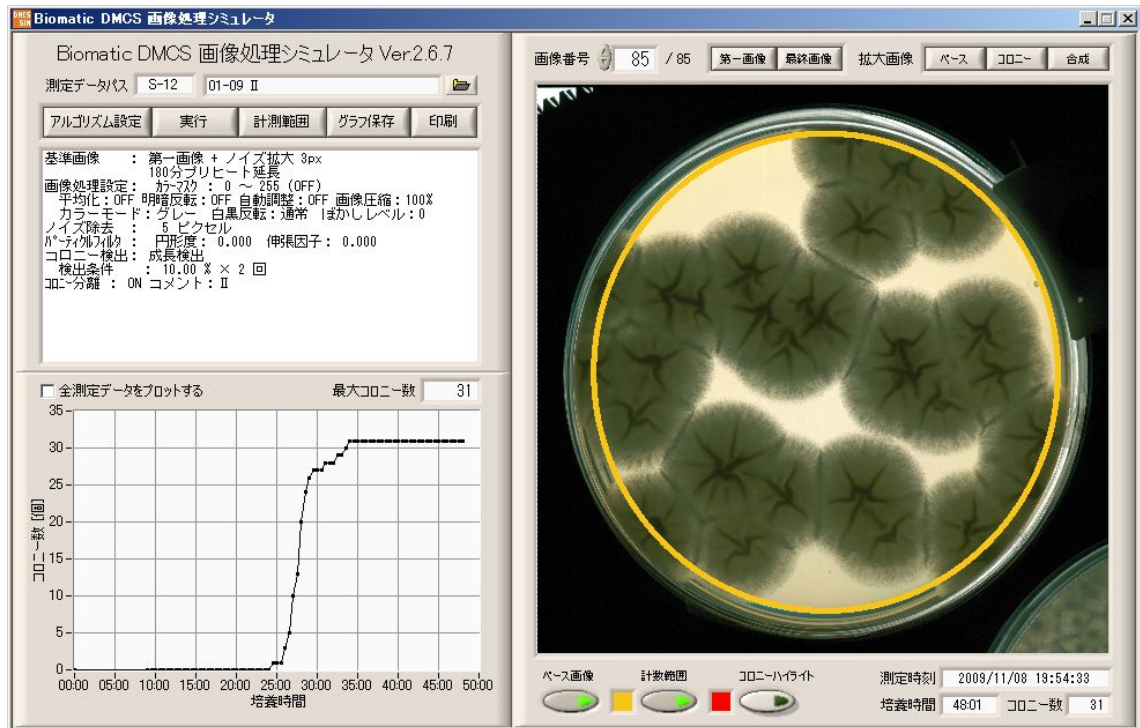
培地は、室温(20℃以上)の暗所で保管して下さい。

5. DMCS S-12 を使用した PPM008 の発育測定例 28°C培養

5-1 0.1ml塗抹：標準菌株 *Candida albicans* (NBRC1594) PPM008での発育



5-2 0.1ml表面塗抹：標準菌株 *Aspergillus niger* (NBRC9455) PPM008での発育



5-3 0.1ml 表面塗抹: 標準菌株 *Exophiala jeanselmei* (NBRC6858) PPM008 での発育

